

特集

未来へつなぐ掃除部のチカラ —川口のまちを輝かせる高校生たち



Interview

川口自主夜間中学

野川 義秋氏・高橋 梓氏

未来へつなぐ掃除部のチカラ —川口のまちを輝かせる高校生たち

川口市は、「ものづくりのまち」として歩んできた歴史をもち、今もさまざまな産業がまちを支えています。今年、美術館がオープンし、文化や芸術に親しめる場が広がりました。都心に近い便利さに加え、水辺や緑地など自然にもふれられる環境は、これからの川口がめざすまちの姿を身近に感じさせてくれます。

こうした魅力を土台に令和8年4月1日から、川口市の新しいまちづくりの指針となる「第6次川口市総合計画」が始まります。この計画は、これからの10年間、川口がどのようなまちをめざし、どんな未来へ進んでいくのかを描いた大切なものです。めざす将来都市像は、「産業と文化と自然が調和した 輝きあふれるまち 川口」です。

まちは市の計画だけで形づくられるものではありません。みなさんの日々の暮らしの中で身近な行動の積み重ねが、その実現につながっていきます。その思いをそつとなぞるような身近な取り組みが、いま、市内の学校での活動にも少しずつ表れています。

■ 掃除部と部員たちの出発点

埼玉県立川口工業高校掃除部は19年前に発足した歴史ある部活動です。これまで、みんなで力を合わせて学校や地域を清掃する活動を続けています。

現在は14名が所属し、廊下やトイレ、教室、校舎の周囲まで、さまざまな場所をキレイにしています。未来に向けてもっと部活動を盛り上げていきたいと、活気あふれる元気な高校生たちです。

入部のきっかけは人それぞれ。先輩や友人に誘われて入った人もいれば、アルバイトと両立しやすいからと、自分のペースに合わせて決めた人もいます。「掃除」に抵抗を感じる生徒は少なく、むしろ“気持ちの良い活動”として前向きに楽しんでいる様子が印象的です。

家庭では掃除は女性に偏りがちな面がありますが、掃除部の約9割は男子部員。女子も男子も「掃除に性別は関係ない。掃除を通しての部活動は、仲間との楽しい時間」と話してくれました。その様子はまさしく、男女がともに支え合って、歩む姿の表れです。



トイレも床もピッカピカ



楽しく掃除、でも真剣

■部活動を通じて見つけたもの

部員たちは掃除を通して大切なことに気づいています。「家の掃除は面倒なのに、部活でやる掃除は楽しい」「終わった後の達成感が全然違う」——そんな声が聞こえてきます。一方で、「掃除部がやっておいて」などの心ない言葉に傷つくことも。それでも部員たちは、「みんなで使う場所は、みんなでキレイにするもの」と伝えながら、静かな誇りを胸に掃除を続けています。

顧問の先生は、「自分たちが掃除をしているから学校はキレイなんだ」とか、「やってあげているのに、キレイに使ってくれない」と不満に思うようなら、無理にやらなくていいと話します。学校はみんなに掃除を頼んでいる場所ではなく、だからこそ、「やらせてもらっている」という気持ちで掃除に向き合ってほしい——それが先生の姿勢です。誰かに言われたからではなく自分で考えて動けるように、体験と経験の中で答えを見つけていくことを先生は大切にしています。

昨年末の「スポGOMI甲子園」では、掃除部「クリーンLV0（レベルゼロ）」チームが埼玉県代表として出場し、4度目の全国優勝、初の大会2連覇を達成しました。競技は制限時間内に決められたエリアのゴミを拾い、種類ごとの得点を競うものです。先輩たちが築いてきた工夫を受け継いでつかんだ結果でした。大会以降、生徒たちはゴミを見る目も変わったといいます。自分たちの手でゴミを拾い、自分たちの場所をキレイにする日々の積み重ねは、「身のまわりを大切にしたい」という意識を育て、やがて環境への関心や思いやりが“**自然との調和**”につながるのではないのでしょうか。さらに先生は、「活動を通してさまざまな人と出会う中で、将来、自分が恥ずかしくない大人に育ててほしい」との思いを日々のやりとりの中でにじませています。

■掃除から広がる社会と未来へ

掃除部は、地域や社会とつながる活動にも積極的に取り組んでいます。

清掃業者から中古の道具を譲り受け、専門的な掃除道具を使った清掃を体験しています。企業との交流を通して、掃除が社会の中でどのようにビジネスとして成り立つのかを知る機会にもなっています。中には「将来は清掃業界で活躍したい」と夢を語る部員もおり、生徒たちの中には“**産業との調和**”がしっかりと息づいています。

月に一度の地域清掃では、「ありがとう」「きれいになったね」と地域の方から声をかけられ、大きな励みになっているそうです。感謝される喜びや、地域とのつながりが生まれるその経験を部員たちはとても大切にしています。どんな時でもゴミに気づけるようになり、「自分の変化がうれしかった」と話す部員もいます。

掃除というささやかな「習慣」の積み重ねが、「キレイを大切にする心」を育み、その「心」から生まれる豊かな活動が、やがて地域に息づく「文化」へと育っていくと感じます。こうした習慣が文化へと変わっていく歩みこそが、川口のまちにおける“**文化との調和**”につながっていくのではないのでしょうか。

掃除部の活動は、産業・文化・自然それぞれとの関わりを大切にしながら続けられています。一つひとつの関わりが重なり、人と人、人とまちを結び川口市の将来都市像を身近なものにしています。

みなさんも日々の暮らしの中からそれぞれの形で、未来へのまちづくりへとつなげていきませんか。



提供／日本財団スポGOMI連盟
拾って！なかまと、全国優勝 スポGOMI甲子園

「自主夜間中学」をご存じですか？

40年前、埼玉県の義務教育の未修了者数は1万人以上、

小・中学校で不登校等の長期欠席児童数が全体の約1%を占め、

戦争や奉公に出て学校に行けなかった方が
学びを求めている状態がありました。

当時、埼玉に夜間中学がないため、川口に

無料の自主夜間中学を上げた野川義秋さん、

スタッフの高橋梓さんにお話を伺いました。



「川口自主夜間中学」

YOSHIAKI NOGAWA

野川 義秋さん

大学時代、「夜間中学」を卒業論文テーマに挙げ、全国の夜間中学を調査。

1985年、川口に自主夜間中学を作り、運営するリーダー。

AZUSA TAKAHASHI

高橋 梓さん

大学時代から外国人に日本語と文化を教える経験を持つ。

川口自主夜間中学では明るく周囲を照らすスタッフ。

◆川口自主夜間中学のいま

川口自主夜間中学は1985年に川口で設立された無料の夜間中学で、年齢・国籍を問わず一人ひとりの学びたい内容に合わせて学べる学習の場です。

教室には、さまざまな事情で義務教育を十分に受けられなかった方や、日本語を学ぶ外国籍の方など幅広い世代の多様な背景をもつ生徒が机を並べています。

生徒数は約45人、週2回（火曜と金曜）の出席人数には差がありますが、両方に通っている生徒もいます。学習内容は、国語・算数・数学・英語・理科などの基礎学習に加え、日本語の読み書きや会話、日常生活に役立つ表現など生徒一人ひとりの要望に合わせて柔軟に進められています。

◆野川さんの想い

野川さんは大学時代の経験から学校に通えなかった人の学びの場として川口自主夜間中学を始めました。今では義務教育未修了者、不登校や引きこもり経験者の他、日本語学習を必要とする外国籍の方々が自主夜間中学に集まっています。

「自主夜間中学を始めて間もないころ、子育てを終えた主婦が川口自主夜間中学に学びに来られました。幼少時代は寺や旅館に奉公に出なければならず小学校も満足に通えなかったとのことで、ここで熱心に机に向かって勉強している姿に頭が下がりました。」こうした生徒の熱い思いが、野川さんの40年にわたる運営の原動力になっています。

◆高橋さんの想い

「7年前、川口に引っ越ししました。川口はとても気に入っていて、外国人も多い街で色々な食があるので

取材を終えて

40年にわたる紆余曲折の中で自主夜間中学の運営に携わってこられた野川さんが生徒とスタッフを優しく見守る姿、高橋さんの生徒に熱心に寄り添う姿が、活気あふれる教室を明るく照らしていました。

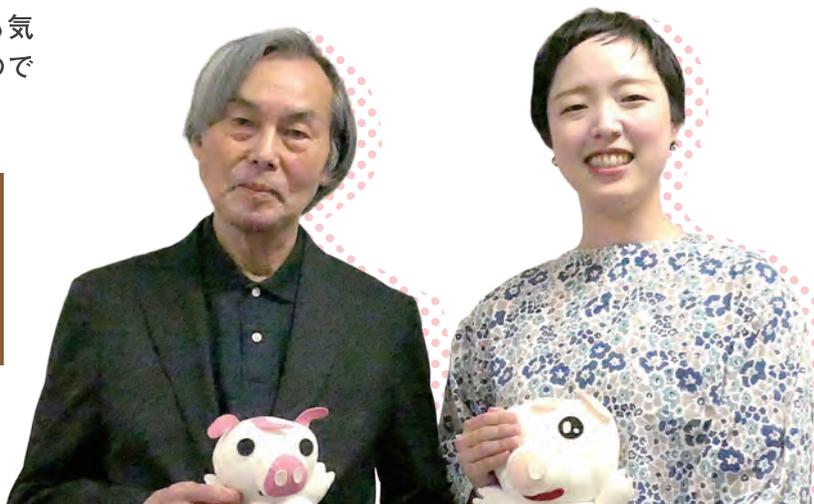
楽しめる街。この街で何かできることを探していた時、偶然に自主夜間中学を見つけて参加しました。今は教えることにやりがいを感じ、モチベーションにつながっています。生徒さんたちが楽しいから勉強したいという気持ちになるような仕組みやモチベーションを作ってあげることが大事で、知らないことを知る喜びをお互いに分かち合いたと思っています。」

今後は、得意のITを利用した自主夜間中学の仕組みや、SNSを活用した発信などに積極的に取り組んでいきたいと語られていました。

◆自主夜間中学の未来へ

現在、子どもから中高年まで幅広い世代が机に向かっていています。

入り口に掲示してある「川口自主夜間中学」の看板には「あなたが来られることを待っていました。」とあり、年齢・国籍を問わず、学びたい人に学びの場を提供することを掲げています。野川さんは「未来へと続く、学びたい人に向けた学びの場の継続が私たちの役割です。」と結んでいます。





川口市役所新庁舎



所在地：川口市青木2-1-1
 アクセス：・バス 「市役所前」下車 徒歩1分
 ・徒歩 JR川口駅東口より11分
 埼玉高速鉄道川口元郷駅より15分
 第一・二本庁舎窓口受付時間：9:00~16:30
 月~金曜日(祝・休日、年末年始除く)
 問い合わせ：048-258-1110 (代表)

Kawaguchi Cafe

MENU

Pick UP



手続きや相談時間にプラスのひと息 街と人をつなぐ川口市役所新庁舎



2025年夏に全面開庁した川口市役所第二本庁舎。自然光や緑を取り入れた開放的な空間で手続きや相談ができ、第一本庁舎とも屋根付きの連絡通路で移動もラクラク。広々とした立体駐車場も完備されています。来庁者用の託児室や郵便局も兼ねそなえた利便性もあり、ベーカリーカフェ「デイジイ」でホットひと息も。多目的スペースや、かつて街を支えた旧本庁舎の基礎で使用されていた松杭を利用した鋳物工場をイメージしたオブジェからは街の息づかいを感じられます。用事のついでにゆっくり足を止めてみるのもいいかもしれません。



「正しさ」を疑ってみる

『女ことばってなんなのかしら？』

『性別の美学』の日本語

平野 獅子 著 河出書房新社

『女ことば』にひそむ無意識のクセ

断定を避ける言い回しや穏やかな語尾など、「女らしい」とされる言葉の背景を丁寧にひもとく一冊。小説で名字だけの人物が登場すると、つい男性を思い浮かべてしまうことはありませんか？海外にも同様の性差があると知ると、言葉そのものに無意識の“役割”が埋め込まれていることに気づかされます。日常の表現に潜むバイアスを目を向けることで、言葉やふるまいについて振り返るきっかけになる本です。



『自分が嫌いなまま生きていてもいいですか？』

横川 良明 著 講談社

『自分を愛さなきゃ』に押しつぶされそうなときに

自分の見た目が好きになれない、褒められると身構えてしまう、推しに認知されるのがむしろ怖い——そんな“ちょっと扱いづらい自分”とのつき合い方を、著者が正直なまま綴るエッセイ。ご自愛ブームの現代で、少し斜に構えたまなざしが心の負担をふっと軽くしてくれます。前向きになれる日の口直しとして、そっと寄り添ってくれるかもしれません。



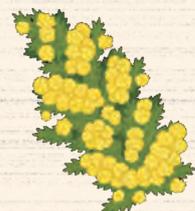
3月8日は国際女性の日 —エンパワメントを考える—

3月8日は「国際女性の日」です。ミモザの日とも呼ばれ、女性たちの成果を称えとともに、ジェンダー平等や女性のエンパワメントについて考えるための国連の記念日です。近年は日本でも、政府や企業などで取り上げられるようになってきました。

エンパワメントとは、力を与える、権限を委ねるといった意味を持つ言葉です。誰かに与えられるものではなく、自分の中から生まれ、自らの意思で行動していくことを指します。昨年、日本初の女性総理大臣が誕生したことで、「私にもできることがあるかもしれない」と感じた人がいたのも、その表れと言えるでしょう。

この機会に、国際女性デーに関する取り組みに触れたり、身近な女性の活躍に目を向けてみてはいかがでしょうか。

参考文献
 HAPPY WOMAN®
<https://happywoman.online/>





市民編集委員に告ぐ！

川口市男女共同参画セミナー 「子育てパパ応援講座」に潜入せよ！

日時：令和7年10月25日(土) 14時00分～15時30分

場所：幸栄公民館

テーマ：「男性保育士が教えるパパと一緒に親子体操講座」

講師：永井 翔太 保育士（戸塚西保育所）

主催：川口市・川口の男女共同参画を考える会（地域・子育て部会）



幸栄公民館で「子育てパパ応援講座」を開催しました。歌に合わせて体を動かしたり、手遊び歌や絵本の読み聞かせを楽しんだり、家庭でも気軽に親子で取り組める内容が盛りだくさん。あいにくの天気で少人数の開催となりましたが、子どもたちは元気いっぱい。最初はパパのそばを離れたかった子も、次第に永井先生に笑顔で駆け寄るようになりました。

三兄弟の長男として育った永井先生は、進路を考えた時「保育士になりたい」という思いが自然に芽生えたそうです。「保育士は子どもの関心ややりたいことを引き出すエンターテイナーでありたい」と語り、日々の保育でもその思いを大切にしているとのこと。講座では親子で体を動かしながら楽しめる工夫が随所にあり、パパ同士の悩み相談コーナーでは「うちも同じです」と共感の声が上がり、和やかな交流の場となりました。

受講者の声

◎特別なおもちゃや道具がなくても、子どもと楽しく遊べるのがわかりました。

◎親の体力がない時でも子どもが楽しめる遊び方を教えていただき、目からうろこでした。

イベントREPORT！

こんなイベント参加しました！

編集委員レポート

ダイバーシティ講演会「オトコ社会の現在地」 戸惑いと無自覚をめぐる座談

対談：清田 隆之さん（文筆業） 松岡 宗嗣さん（ライター）

主催：WithYouさいたま（埼玉県男女共同参画推進センター）

講演会「オトコ社会の現在地」をオンラインで視聴しました。講演では、男性が無自覚のまま社会的な優位性を持ちながら、その裏側で生きづらさを抱えていく社会構造について、インフルエンサーの発信や社会の変化を織り交ぜながら時系列で説明されていました。男性同士の関係の「あるある」として、二人で話すときは対等でいられるのに、集団になると序列が生まれて真面目な話をしにくくなること、「男らしさ」が評価の基準となること、さらには同性愛者が同じ男性集団の中でも不利な扱いを受けやすい状況などが挙げられ、男性の生きづらさには複数の要因が絡み合っていることが示されました。目的のない「他愛のないおしゃべり」を男性同士で交わすことが、生きづらさを緩和する一歩になると語られており、オチのある会話やノリの良さを求められて疲れてしまう人にぜひ届いてほしい講演でした。



「With You さいたま」埼玉県男女共同参画推進センターでは、年間を通して多様な講座やイベントを開催しています。

詳しい内容や最新情報はセンターのホームページをご覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/index.html>



○男女共同参画情報紙編集委員を募集します

- 募集人数／若干名
- 活動内容／情報紙の企画や取材、原稿作成など
※編集会議は月に1回程度、土曜日に川口駅東口キュポ・ラ本館棟M4階で開催します。
※調査・取材は随時行います。
- 応募資格／市内在住・在勤・在学中、令和8年4月1日現在、満18歳以上であること
- 任期／令和8年4月から2年間（最長4年）
- 発行回数／年1回を予定（発行月未定）
- 応募方法／応募用紙に必要事項を記入のうえご提出ください（郵送／メール／直接持参）
※応募用紙（Word形式）はキュポ・ラM4階で配布又は市のホームページからダウンロードもできます。
- 応募期間／～3月13日(金) 必着
- 選考方法／書類審査及び面接
- その他／会議への出席等につき2,000円をお支払いします。



○男女共同参画情報紙とは

公募による市民編集委員が中心となって企画・編集を行い、情報紙を発行しています。

男女共同参画に関するタイムリーな話題から、多方面で活躍する川口の人々、市で実施している事業の紹介やちょっとためになるコラムまで、毎回充実した内容でお届けしています。



男女共同参画苦情処理委員制度について

川口市男女共同参画推進条例第14条の規定に基づき、市が実施している男女共同参画の推進に関する施策または男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策等に対して、市民の皆さんから苦情の申出や意見の提出ができる制度です。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01060/020/8/4174.html>



○DVに関する相談先

川口市配偶者暴力相談支援センター

窓口相談

●相談日時●

毎週 火～金曜日(祝日・年末年始を除く) 午前10時～午後5時

※事前予約制です

☎ 048-299-8162

女性のための電話相談

●相談日時●

毎月 第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日) 午後1時～午後3時

※ひとり30分まで相談を受けます。

☎ 0120-532-317

(相談日時のみ通話可)

その他の相談先

川口市役所 市民相談室 ※法律相談、ファミリー相談等(予約制)	
月～金(祝日・年末年始を除く) 8:30～17:15	☎048-259-9037 ☎048-259-9038
最寄りの警察署(生活安全課)	
月～金(祝日・年末年始を除く) 8:30～17:15	川口警察署 ☎048-253-0110 武南警察署 ☎048-286-0110

緊急の時は110番!

配偶者や恋人など親しい間柄で行われる暴力行為をDVといいます。殴る・蹴るだけが暴力ではありません。

- 何を言っても無視する
- 交友関係を制限する
- 避妊に協力しない
- 性行為を強要する
- 生活費を渡さない
- 暴言を吐く

☑(チェック)がひとつでもついたら、DVかもしれません。一人で悩まずに、まずはご相談ください。

市役所からのお知らせ



川口市「育児をシェア!!～みんなで楽しもう～」フォトコンテスト

令和7年度

受賞作品の発表

市長賞



「ママまかせてね！
私がお姉ちゃんだよ」



「お兄ちゃんの優しいトントン」



「わたしがおてほんみせてあげる」

優秀賞



「ごはん大好き！」



「おむつでサイン会」



きゅぼらん賞

「お仕事体験！」

カラフル
COLORFUL ぶえすた
特別賞



「お姉ちゃん、あ～ん」

カラフル
COLORFUL ぶえすた
特別賞



あまーい！

事務局

川口市 市民生活部
協働推進課

〒332-0015 川口市川口1-1-1 キュポ・ラ本館棟M4階
TEL 048(227)7605 FAX 048(226)7718

編集後記



市民編集委員 ※五十音順
岡本・佐藤・鈴木・橋本・前澤・山崎

◆掃除部で黙々と作業に向き合う生徒の姿に触れ、掃除が心に寄り添う時間だと感じました。小さな行いの尊さにも気づかされました。(岡本) ◆川口工業高校では高校生の発想とチームの目標を達成する力。川口自主夜間中学の野川代表から長年にわたって信念を貫く力。川口の未来につながる力が伝わってきました(佐藤) ◆多くのテーマや人と出会えたことに感謝します。読む方の日々を少し立ち止まって見つめるきっかけになれたらうれしいです。(鈴木) ◆川口工業高校掃除部の皆さんにお会いして、掃除について振り返る機会になりました。何かに頑張ること、未来に繋がると思います。(橋本) ◆今号は新しい情報盛り沢山です。街も人もアップデートしていきたいですね。(前澤) ◆10年後の川口にも、お気に入りの風景はそのままであってほしい。街の変化を見守るだけでなく、知ることを通して楽しんでいけたらいいなと思いました。(山崎)

